近代詩文書最優秀作品　（8月15日締切分）

葛西玄涛先生選評

鈴木笋芽　推選　平仮名と草書の漢字の線質が、見事に調和した。曲線と直線を速度の変化を大きくし、強弱の激しい演出を紙面いっぱいに展開した。読みやすい行書も同様です。

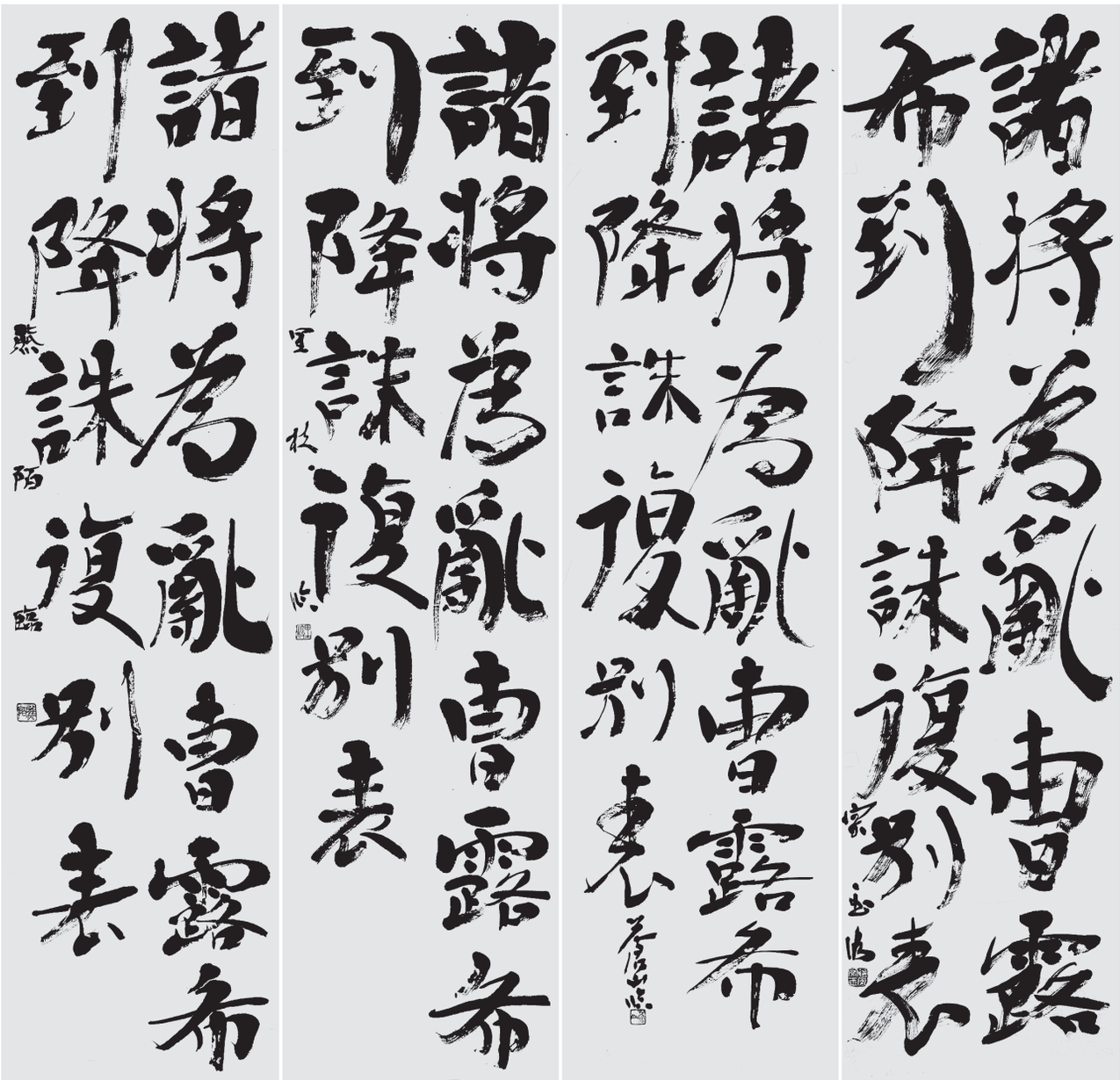
米山霞香　推選　毛筆の弾力を強い反発力に変えて、紙面に食い込む線で書き終えた迫力が伝ってきます。少しだけ見られる柔らかい線と行の揺れが、歌の風景と重なり情緒ある。

岡　有為愛　推選　迫力のある草書の三文字が強い印象となっている。肩や肘に無駄な力を入れずに穏やかな川の流れのような動きなので、縦横への線が伸びやかで清涼感を持つ。

木下朋春　推選　変化と豪快、そして華やかな夏の打ち上げ花火のような多彩な線が舞っています。紙面からこぼれ落ちそうな程の線たちを強く鋭い線が仕切って、安定感を保った。

漢字条幅最優秀作品　（8月15日締切分）

北澤翠香先生選評



藤原宗玉　推選
紙面を大きく捉え、羊毛筆の魅力を十二分に発揮させた。呼吸の長い運筆は、日頃鍛練された賜物であり、圧巻作品です。鷗亭先生の参考作品を彷彿させます。

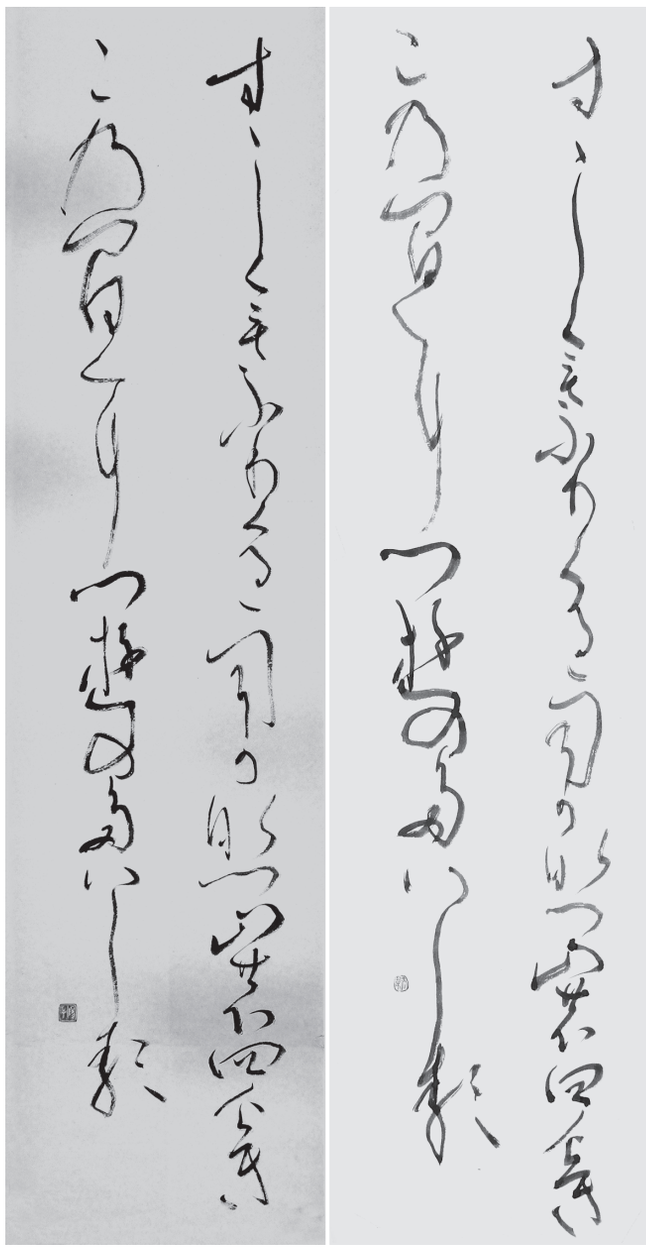
清水蒼山　推選
筆の握りを軽くし、運腕大きく軽妙な筆遣いながら、線の強弱・太細を強調して重くなく、余白が生かされた明るい作とした力量に感嘆します。流石ですね。

柳澤里枝　推選
原帖の書体の字形を大切に、蔵鋒を駆使した遅速の変化、沈着した線質が温かくて重厚なゆったりとした表現となり、安定感のある飽きなく魅了する、臨書作品です。

佐藤熊陌　推選
原帖をしっかり把握なさっていいですね。線の強弱・太細の特徴をひきたたせた立体的で衒いのないリズムの間が、余白となり感服します。高レベルの臨書作。

かな条幅・かな半紙最優秀作品　（8月15日締切分）

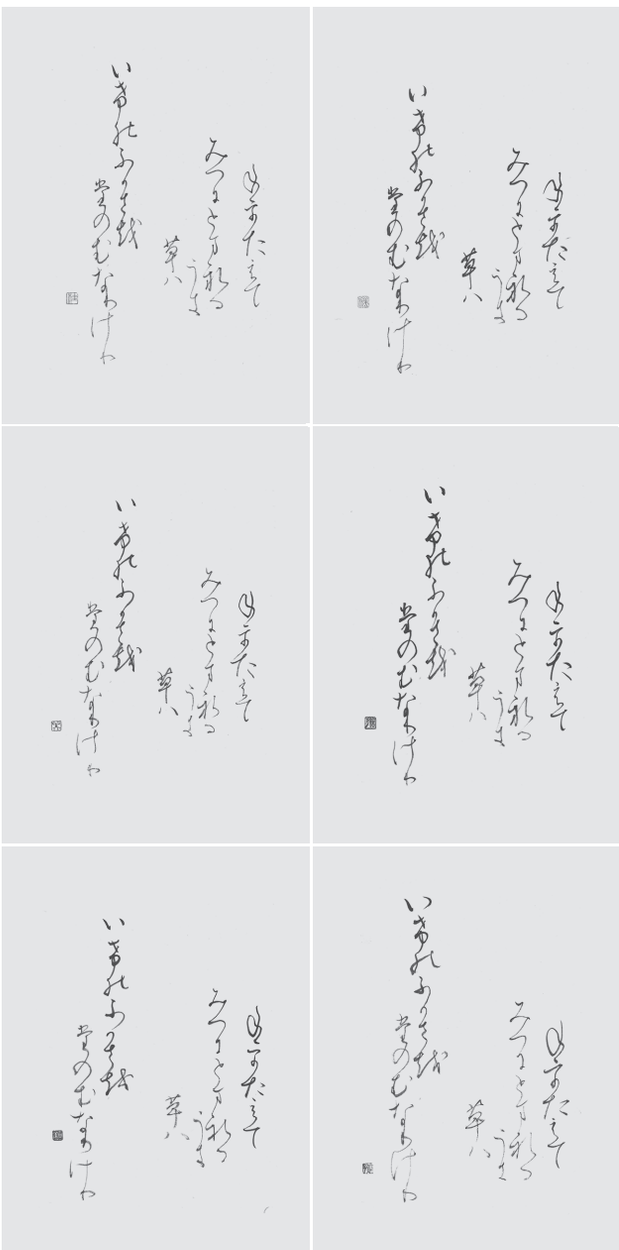
佐々木優子先生選評



太　子　美智子　推選
柔らかな墨色で、ゆったりダイナミックな動きで書かれ、一行目、二行目の空間が響き合い、安定感のある作品となりました。

神　田　陽　子　推選
細身のしなやかな線が料紙に合い、伸びやかで仮名の美しさを表現されています。渇筆部、線の変化を工夫されると更に作品に深みが出るのでは。

露崎桂子先生選評



石井美保　師範
文字の細太・大小の変化をよく捉えています。行間の微妙な変化も佳。良く纏まっています。細太の変化が自然で原帖の特徴を捉えています。

青木桂涛　七段
原帖をよく捉えて字形の美しい作となりました。「伊勢集」のふくよかで弾力性のある線が後半にもう少し出ると、更に存在感のある作に。

宮田信子　師範
大らかな筆線で伸びやかな筆の運びに好感が持てます。特に墨継ぎからのふくよかで弾力性のある線は、この作品を更に魅力的にしています。

洲崎美子　六段
お手本をきちんと捉えて、丁寧で素直な運筆に安心感があります。原帖の特徴である文字の細太の変化が出ると更に印象的な作になるでしょう。

吉田裕子　準師
細い筆線が多いのですが、しっかり紙にくい込み、その筆線が生き生きしています。大らかな運筆は佳。文字がやや大きくなり、惜しい。

永田由美子　五段
墨色のきれいな作で、真面目な運筆に好感が持てます。ただ、文字と文字の間が同じようになり残念。もう少し字間に変化をつけてみましょう。

漢字半紙最優秀作品　（8月15日締切分）

赤冨士北祭先生選評

渡部　浩美　師範　造形の美しさを求めながら、運筆に自然さがある。腕全体を使い堂々と書かれているからだろう。線の深さに長年の研究のあとが窺える。

柳　朋子　準六　起筆が安定しているゆえに全体に揺るぎのない作となっている。厳粛な石碑の本質的なものを感じさせる作。余白に淀みがなく美しい。

山根百合子　師範　高くから落筆された筆が丸みのある線を生んでいる。奔放な運筆の中に深みのある線は紙の中によく食い込み、流石師範である。

小松崎楓景　準師　たっぷりな含墨で大胆な筆致から生まれる力は、暖かさやはじけるような若々しさを表現している。落款・印がやや大きくありませんか？

秋定　敬子　八段　一点一画を大切にしながら、スッキリとした線が心地よい。大胆な運腕から生まれ出る太細の変化も効果的で爽やかな作品に仕上がった。

東谷　美子　四段　やや濃墨で表現し、黒光りするような原碑の美しさを想起させる作。この骨格の強さが、かな作品の自在な運筆に説得力を増すことであろう。

後藤　寿子　師範　やや小ぶりだが、柔らかな用紙に軽やかに筆のタッチが利き明るい作品となりました。更に大胆さを求めて。「臨」読みにくくおしい。

安川　杏花　六段　緩急の変化を利かせたリズムから生まれる強い線、厚みが有る線の表現は見る者に説得力がある。そのことが創作作品に活かされるであろう。

岩﨑　六雄　八段　やや細めで書かれ、研ぎ澄まされた風趣が全体の雰囲気を醸し出す。二文字がそれぞれに引きつけあい、大きな宇宙を表現している。

髙野　宣子　初段　大胆な運筆から生まれた起筆が引き締まった線を生み、作品の強さに繋がっている。楷書が得意な方だと思うが、指の力がやや抜けるとよい。

田尻　白華　師範　自由自在な運筆の変化から生まれる軽快なリズムは木簡そのものである。二文字の対比も美しく、自由自在な落款にも拍手を送ります。

熊本千恵子　三段　余裕から生まれる筆の開閉自在な筆遣いは、紙面に充溢し書歴の長さが窺える。ドラマティックで、漢時代の人々の息遣いを想わせる。